

病害虫の
見分け方
シリーズ

果樹のカメムシの生態と対策, 見分け方

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
植物防疫研究部門

ふり
降

はた
幡

しゅん
駿

すけ
介

はじめに

我が国において、果樹を加害するカメムシ類は数十種いるとされるが、中でも特に重要なものがチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシであり、これら3種を「果樹カメムシ類」と総称する(図-1)。このうち、チャバネアオカメムシは全国的に分布する最重要種であり、ツヤアオカメムシは主に関東以西に生息し、クサギカメムシは全国的に分布するものの特に北日本で問題となりやすい。本年(2024)前期は特に前2種の発生が極めて多く、対応に苦慮した関係者も多いのではないだろうか。本稿では、これら果樹カメムシ類の生態と対策を改めて振り返るとともに、類似種との識別ポイントについて解説したい。

本文に先立ち、草稿に対して有益な意見をいただいたほか、写真の掲載についても快諾いただいた三代浩二氏に厚く御礼申し上げる。

I 果樹カメムシ類の生態と対策

果樹カメムシ類は多くの農業害虫と異なり、農生態系内で生活史を完結できないとされる。彼らは主な繁殖地としてスギやヒノキといった針葉樹に依存しており、初夏から盛夏にかけて幼虫がその球果を吸汁して発育し、新成虫が羽化する。羽化した成虫も針葉樹の球果を吸汁するが、吸汁が進み球果が劣化すると針葉樹林を飛び立ち、新たな餌資源を求めて移動する。その飛翔距離は個体によっては数十kmにもなると言われる、非常に移動性の高い昆虫である(守屋, 1995)。その道程に果樹園があればそこに降り立ち、果実を吸汁加害する。そのため、生産者から見れば、突然襲ってきて大切な果実に被害を及ぼす厄介な害虫、ということになる。



図-1 果樹カメムシ類3種の写真

左からチャバネアオカメムシ, ツヤアオカメムシ, クサギカメムシ(すべてメス)。

Life Cycle, Countermeasure, and Discrimination of Fruit-Spotting Bugs. By Shunsuke FURIHATA

(キーワード: チャバネアオカメムシ, ツヤアオカメムシ, クサギカメムシ, 触角, 小楯板, 前胸背板)